

大宮駅東口を歩く、知る、語る

日時：平成 23 年 1 月 22 日（土）

会場：大宮区役所 南館 301 会議室

次 第

1. 学生提案競技開催に向けて
学生提案競技について（趣旨） 渋谷 勉（さいたま市 都市局長）
羽藤 英二（東京大学 准教授）
2. 大宮駅東口の歴史と現状
- 質疑応答 中野 英明（大宮駅東口まちづくり事務所長）
3. 地元住民の大宮への想い
[登壇者] 栗原 俊明 氏
齋藤 隆 氏
山田 とも子 氏
齋藤 陽子 氏
- 会場との意見交換
4. 学生提案競技の今後の進め方について
- 質疑応答



これまでの10年。
これからの100年。
SAITAMA CITY 10th ANNIVERSARY

【会議録】

1. 学生提案競技開催について

- 主催者挨拶 -

渋谷局長：本日は、首都圏の大学をはじめ、熊本、名古屋、京都などの地方の大学からも参加をいただきありがとうございます。今回のシンポジウムは都市計画学会 60 周年とさいたま市 10 周年を記念して実施する学生提案競技に関するシンポジウムである。さいたま市の都市計画道路の整備率は政令指定都市 19 都市の中で最低であり、公園の整備も不足しているという問題がある。

特に大宮においては行政と市民の間に不幸な期間が存在



したという歴史がある。さいたま市になって大宮周辺地域戦略ビジョンというものを策定した。現在は、14のまちづくり団体が活動している。大宮駅は乗降客数65万人の大きな駅であるにもかかわらず、その周辺は、基盤整備や建物の老朽化などの数多くの問題を抱えている。都市計画学会では多くの候補地があったにもかかわらず、大宮を選んでいただいて大変光栄に思っている。このような数多くの問題に学識の方々や学生さんが関わり提案して頂けることはとてもありがたい。

是非、将来プランに活かしていくことを考えているので、よろしくお願ひしたい。

- 趣旨説明 -

羽藤先生：ここでは、都市計画学会が60年の歴史で初めて行う学生提案競技であるということの意味について語りたい。

日本がおかれている状況は激変している。今、都市に求められていることは過去60年求められてきたことから大きく変化しようとしていることに着目してもらいたい。少子高齢化、低炭素社会といった課題を踏まえ、新しい都市像を示すことが重要であると感じている。時間、建築、文化、社会といった観点から、磯崎新氏・内藤廣氏、陣内秀信氏、三浦展氏には60周年記念誌で大人の議論を展開していた



だくことを考えている。一方この提案競技では学生の皆さん自身が実際にこれから関わっていくであろう都市とどう向き合い、どのように将来像を構築し得るかという視点を盛り込んでもらいたい。特に建築、交通、緑といった都市的な複合的なテーマに対処してもらいたいと思っている。対象敷地は50haと広大である。大人が取り組んだとしてもおそろしくなかなか難しい敷地であることはわかっているが、自らの力でこの敷地の本質を抽出し、その将来像を構築してもらいたい。

2. 大宮駅東口の歴史と現状

中野所長：大宮駅東口の発展の歴史についてお話しする。大宮駅とさいたま新都心の距離は1.6km。東側に広大な見沼んぼが存在する。東西には大宮岩槻線、大宮中央通線と南大通東線。南北には中山道、氷川参道と産業道路がある。

大宮氷川神社の門前町としての発祥。紀元前473年と言われているが、一番古い文書では平安時代に名前が出てくる。スサノオノミコト、イナダヒメノミコト、オオナムチノミコトが祭られている。大いなる宮居という意味で大宮という地名になったと言われている。明治天皇が3回行幸されている。

見沼という溜池があり、新田開発がおこなわれた。大宮氷川神社、中山神社、氷川女体神社が南北に3つ存在し、見沼を中心に存在していた。新田開発を行う際に龍の伝説が存在する。さいたま市のゆるキャラ「ヌウ」もそこからきている。

氷川神社の祭儀が毎月のように行われている。市民が関わる行事もそれとともにあり、大宮のまちのリズムの多くは氷川神社に作られていると言ってもよい。正月三が日の参拝客は205万人程度で全国第9位。氷川参道は「並木十八丁銚杉続き」とうたわれた。昔は杉だっ

たが今はケヤキなどが中心となっている。

1628年に中山道を付け替えて宿場町として大宮がつくられる。当時の人口は1500人程度。昭和、平成と時代を経るにつれて高度利用が行われるようになった。街道文化で間口の広さで税金が決まっているので間口が狭く奥行きが長い地割になっている。

次に鉄道の町としての歴史についてお話する。明治16年に上野から熊谷に高崎線が開通したが、当時は駅がなかった。大宮が衰退するとのことで誘致運動を積極的に行い、明治18年に大宮駅を開設。白井助七（名誉市民）という方が私財も投入しがんばった。その後、昭和の時代に東武線などがつながるようになった。



鉄道が増えることで製糸工場が昭和30年代に進出し、大宮の代表的な産業になった。鉄道のまちから派生して、商店街が形成されるようになる。一番町や銀座通りなどである。また、西武や高島屋などの百貨店も進出してきた。駅ビルにも商業機能が進出し、昭和後期には映画館も10館ほどあったが今はない。

当時は、埼玉県下の15%強の売り上げを大宮があげており、鉄道の存在により商圈も広いと言える。しかし近年はその割合も低下傾向で商圈も小さくなりつつある。

東北新幹線の開業にあたって、西口が整備された。東口は駅前広場を含んだ形で駅前再開発事業が都市計画決定されたが反対運動が起こり、事業の廃止が決定し、都市計画としても廃止した。再開発を廃止したのは全国的にも珍しい事例である。また、平成16年以降大宮駅の周辺に大型SCが相次いで出店した。それにより商業の吸引力もますます低下している。現況の課題として、昼夜間人口比は148.6で夜間の1.5倍。乗降客数は一日当たり65万人。建築物の老朽化が進んでおり、駅前で9割以上が老朽化している。また、慢性的な渋滞、歩行者、自転車、公共交通の錯綜、荷さばき駐車、路上駐車などの問題、放置自転車の問題がある。

現在は大宮駅周辺地域戦略ビジョンという計画を策定し、まちづくりを進めている。

- 質疑応答 -

学生：氷川参道の街路の整備における街路灯の設置間隔は？

30m。

学生：地元からの反対によって駅前の都市計画決定が廃止されたという話であったが、いまは協議会やまちづくり団体が多くできていると聞いた。どういう経緯があったのか？

当時は行き違いや、市の一方的な計画だということで反対されたと聞いている。廃止後は、廃止されたのであれば地元が自主的にやらなければならないということで、多くのまちづくり団体が生まれたという経緯がある。

学生：戦略ビジョンの中でおもてなしという言葉が使われているが、どういう経緯ででてきたのか？誰に対してのおもてなしなのかを教えてください。

まずは来街者に対して。もちろん地元住民に対してという意味もあり、具体的なターゲットがあるわけではない。その場所にいる人に対するおもてなしと捉えている。

3 . 地元住民の大宮への想い

栗原氏：生まれも育ちも大宮。年は 36 歳。大学卒業まで大宮にいて、就職で東京に少し住んでいたが家業を継ぐために 6 年前から帰ってきた。区民会議とは行政でも議会でもない住民視点で問題を話し合う組織である。

大宮への想いとして、子供のころは情報も今ほど多くなく、交通もこれほど整備されていなかった。今でも大宮は人も多いように見えるし若い人も多い。しかし、子供のころの大宮は来ること自体が楽しかった。いまの人たちにとって大宮は来ること自体が楽しい、というよりはその後のアクティビティが楽しみで来ている様な感じ。また地元の人たちがやっているおもしろいお店がなくなったように思う。おもちゃ屋すら大宮駅にはない。また、怖くて入れないところがあったように思う。そんなごった煮の場所だったが、最近はそういう感じじゃない。



いい点と悪い点を挙げると、アンバランスさ。大宮は乗降客数が非常に多いにもかかわらず街がまったく対応できていない。高層化された西口に比べて地元っぽい東口。ローカルさ。これは歴史の無いまちにはつくれない。なぜ東口の古いまちが残ったのか不思議に感じるかもしれないが、求められたから残ったのではないかと思っている。

区民会議の視点からいくつかお話する。地域資源については氷川神社、大宮公園、アルディージャのホームスタジアム。そういうものがあるにもかかわらず、あまり活用されているように思えない。マップもなければサインもない。安心・安全というテーマでは駐輪などがひどい。啓発活動ではもう追いつかない状況。

また誰にでもやさしいまちではない。区役所などの公共施設が老朽化していることとあまり便利な場所がない。

自分が住むまちをデザインするくらいの気持ちでやってもらいたい。

斎藤（隆）氏：学生の皆さんには、大宮のまちに来ていただき、また、まちづくりに関する提案をしてくれるということに、大変期待している。

我が家は、大正 8 年に大宮に疎開してやってきた家だと聞いており、私自身は大宮で生まれ育った。自転車屋や飲食店などを営業してきたが、現在は、ロフトのあるところに土地や建物を所有していた関係で、オーナー会の事務局をやっている。

子供の頃は、大宮小学校に通っていたので、朝から晩まで野球をやっていた。大宮のよいところは、氷川神社と交通の便の良さだと思う。東京に行くのも便利だし、新幹線があるので旅行に行くのも便利である。

また、大宮の人たちは人がいい。仲間意識が強いように思う。改善してもらいたいのは街が今の時代にマッチしていないところで、今の時代にあった駅周辺になればと思っている。

駅前地区の商業についてだが、先程の再開発事業の廃止について地元住民側から説明すると、当初、大宮は



東口を中心に栄えており、当時の西口は商業があまり盛んではなく、西口をなんとかしなければという話し合いがあって、そごうなどができるようになった。そして、さいたま新都心駅が開設されたくらいから郊外 SC ができるようになってきた。このような動きの中で、東口だけが取り残された状況になってきた。西口開発とともに東口開発の公示がなされたが、当時、東口は非常に活気があり、そこで商売をされていた皆さんは大変忙しかったため、行政の話し合いにも参加することができなかった。会合に出て行かない中で、代表者のみが参加し、結果的に行政主導だという批判が持ち上がり、廃止という結末を迎えた。

しかし、先ほどのような社会情勢の中で、東口もそろそろ何とかしなくてはということで生まれたのが東口協議会であり、当初は NPO 法人でやるつもりだったが、色々と問題があり難しいという話もあったので、一般社団法人としてスタートを切った。会員は 30 名程度で、会員以外の方を含めると 60 名程度で活動している。

また、駅周辺には 15 の商店街があるが、現在、後継者が居ないなど、商店街が成り立たなくなっているという課題を抱えている。私が所属している商店街では、33 名の会員及び 10 名の役員がいるが 2 名が名義を借りている状態である。現在は、各商店街で集まりながら今後の駅周辺をどのように運営すればよいか悩んでおり、海外の事例や日本のエリアマネジメントの成功事例などを集めて議論を始めている。

山田氏：父方は大宮に土着の人なので、今日の参加者では一番住んでいるのは長いと思う。

先ほどの“おもてなしの心”に対する質問についてお答えすると、氷川参道のまちづくりのパンフレットの中で“おもてなしの心”について書いてある。外から来た人も当然だが、街を行き交う人であっても楽しい雰囲気がある、気持ちいいと思える、また行ってみたいと思わせるようなことが“おもてなしの心”ではないか。

大宮は昔から豊かな商人のまちで、経済的に豊かで発展してきたので来る者は拒まずという精神があった。そして外から来た人が大宮の人となり、さらに発展してきた。昔、東北方面から働きにくるとき最初に着くのは上野だが、一度大宮あたりで働いてみてから一旗あげた後、東京へ行こうという人が多かった。でそのまま大宮に住み着いた人も多い。また、埼玉県下では大宮の人と結婚したいという雰囲気があった。

そのような人たちが経営者になり三代四代と続いて大宮への愛が形成されてきた。しかし、最近は大宮の個性や大宮への愛が希薄になって来ているように思う。大宮公園や大宮駅開設のために私財を投げ出した人々、例えば白井助七翁のような人が少なくなり、単にお金儲け出来ればいいという風に流れてしまっているのが悲しい。東口の五町には山車と神輿がある。現在、その維持管理が非常に大変である。大宮の祭りは伝統があるので、新しいイベントに力を注ぐことも必要だが、大宮に古くからあるイベントにも、少し力を入れる必要があるのではないか。

氷川神社周辺で大宮らしさを感じさせるうるおいのあるまちづくりができればと思っている。大宮を元気あるまちにするためには前世代の人が残していった資産を活かし、磨きをかけ、将来につなげていけるまちにする必要があるのではないかと考えている。

ここ何十年もの間、大宮公園のポート池の浚渫が行われなか



った。そのため、メタンガスやヘドロが溜まり、異臭を放つ状態であった。そのことに、興味を持つ住民が少ないことが残念である。公園事務所の計らいで、今年、浚渫を行うことになった。相当な費用がかかるが、前世代の人が残していった資産を、放置せずにいたいと思う。そこに住んでいる人が幸せを感じられる街でなければいけない。なぜなら、その思いは外来者が一番敏感に感じ取ってしまう。これは駅前などの公共空間に通じるもので、すべてのエリアにおもてなしの心がなければならないと考えている。

いまの大宮駅の駅前広場はほっとする空間ではない。自宅と大宮駅を結ぶ操作場のように感じているように感じる。自分たちの“まち”だなぁ、よい“まち”だなぁと思うような駅前広場にしてほしい。便利だから、よそがやっているからのようなまちづくりでは、砂上の楼閣という残念な結果になりかねない。大宮の住民の願いとしては、鉄道の要衝としての責任とともに、大宮に似合う身の丈に合ったまちづくりを提案してもらいたい。

齋藤（陽）氏：フリーランスで、出版物の編集制作をしている。3年前まで、20年間ほどタウン誌「おおみや」という雑誌を発行しており、その編集長を18年間務めさせて戴いた。

全国には街の情報を発信するこのようなタウン誌が沢山あるが、現在はピーク時の30%くらいになっている。どんなタウン誌をその町が持っているか、でまちの文化度がわかる、などと言われるが、私どものタウン誌を支えてくれていたのは、まさに、先ほど皆さんが、歩いて見てきた東口の商店会を中心とした、大宮の町の商店主、会社、企業の方々である。

商いの町、大宮の東口商店会の方の御一人がおっしゃった言葉で、今でも心に残っている言葉がある。「埼玉に住んでいる人は埼玉県人というけど、大宮にすんでいる人は大宮人とは言わない、“おおみやびと”と言うんだよ」。商いだけでない、プラスアルファ、人生を豊かにする術を備えているのが、本当の大宮人なんだと。



確かに、宴会ともなると、皆素人離れした芸を披露したり、音楽や、絵画など、文化的な活動をしたり、応援をされている方が多かった。まち作りには、こうした町の人たちの心意気、文化的な心の財産も生かしてもらいたい、と思う。

駅から近くのまちの真ん中に2kmものグリーンベルトを持つ氷川参道、その奥に神社の森、大宮公園、盆栽村。そして西には、年間100万人の人を集める交通博物館。これらを巡ってここに暮らす人たちが「歩いて回遊できる町」。今3分割されている氷川参道も、もとの参道に再生できたら、日本一の散歩道になると思う。

東口には、南銀座という、東京で言えば新宿の歌舞伎町のようなエリアがある。かつては北銀座という風俗街もあったが、まちには、このような猥雑なところがあってこそ、面白いとも思う。いい提案で、町の人を取り込み、一緒に汗を流しながら、やりましょよ、というプランをお待ちしている。

- 質疑応答 -

学生：東口の駅を降りたときに最初に目に入るのは南銀座。小さい頃は危ないところだから近づくなと言われてきたが、大人になって行ってみるとチェーン店ばかりで表情の無い町だと感じた。3名の方はどういう意識をお持ちか？

危ないところもありつつ、おもしろいところもあるなという印象。自分がお酒を飲めるようになった時代はみんなが来る理由もわかるな、といった感じだが、たしかに最近は表情がないと思う。

昔、東京の友達を連れてきたとき、危ないところだな、と言われたことがある。

しかし、最近はチェーン店が多かったり、外国の方が増えて来たりして昔の店っぽさはなくなってきている。繁盛している店を教えてくださいと聞くと、誰も答えられない。現在はそんな状況である。南銀座は、昔は豊かな商店街だったが、昭和中期から飲食店街になった。南銀座という名称に変わった昭和30年代は、街の経済を動かしている人たちが訪れる場所だったが、最近はカラオケやゲームセンターなど経済に動かされるような人々が集まるような街になってしまった。以前の活気を取り戻してもらいたいし、横浜中華街やアメヤ横丁のような街になってほしいと思っている。また、南銀座から新都心の方向へ渡る橋を架けたいという希望もある。

学生：まちづくり団体の活動エリアの概要をいただいているが、エリアが重なっている団体も多い。共同で活動されることなどはあるのか？

北地区まちづくり会は南地区まちづくり会などと一緒に、駅前合同地区協議会を形成しているなど複雑な構造となっている。ただ、再開発（といってもいろいろな意味でとられうるが）を行うための準備組合として各団体が存在している。東口協議会は誰が責任をとって、という話ではなく、漠然としたビジョンでもいいのでみんなで議論をする場として活動している。

緊密に連絡をとっている団体もあれば、独自に活動を行っている団体もある。商店街系の団体は緊密に連絡をとって一緒にイベントなどを行っている。

学生：以前、東口と西口を結ぶ地下道があったように思うが、地下道の遺構は残っているのか？
おそらく使えない。

学生：大門町などに相次ぐ高層マンションの建設が進んでいるが、このことに関してどのように思っているか？

まちが変わっていく中でこういうものが必要だと思うが、ここまでやる必要あるの？というのが正直な気持ち。また、販売価格が高すぎて若い人が住めず、結局高齢者が住んでいるという話も聞いたことがある。

4 . 学生提案競技の今後の進め方について

事務局：今後のスケジュールについて説明する。一次審査の作品提出の締め切りは2011年4月11日の17時まで。一次審査の結果を2011年6月上旬に代表者に連絡する。学会HPでも公表する予定。二次審査は7月中に公開審査会という形で行う。受賞者については、2011年11月18日の60周年記念式典にて表彰する。

要求図書としては、応募要項と本日お配りしている「第1次審査用作品提出にあたって」を参

考にさせていただき、A1 縦 2 枚以内と A4 概要を 4 枚以内で提出していただきたい。それらを PDF 化したものと合わせて提出してほしい。基本は郵送で提出をお願いしたいが、平日のみ学会事務局に直接持参していただいても構わない。

- 質疑応答 -

学生：提出時はパネルにする必要はあるか？

パネルにする必要はない。

学生：各チームが個別にヒアリング調査や資料提供をお願いすることは可能か？

常識の範囲内で許可。

学生：質問は随時回答いただけるのか？

質問は随時公開予定。

学生：計画の期間はどのようなものか？

計画期間の設定は 2030 年の設定。

- 終了 -